

令和3年度

港区立御成門小学校 学校経営計画

港区立御成門小学校校長 和田 京子

東京都及び港区教育ビジョン、並びに港区の目指すべき子どもの姿に基づいて、御成門小学校の教育目標の達成を目指した学校経営を推進する。

今年度、本校は開校30周年を迎えた。本校は、5つの学校が一つになってできた学校である。いつの時代も保護者や地域の方々、これまでの多くの卒業生の方々が、子供たちの成長を願い、温かく支えてくださっている。そのおかげで、それぞれの学校の長い歴史と伝統を受け継いで「明るく素直な校風、気風」を継続することができている。改めてこのことを心にしっかりと受け止め、教職員がより一層子ども理解を深め、子どもたち一人ひとりが、自分のよさを実感して、そのよさを自ら伸ばそうとする意欲をもつとともに、互いに認め合い、互いを尊重する心を育ていけるように教育活動を推進していく。そして、さらに保護者や地域の方々との連携・協働を進め、「明るく 笑顔があふれる 誰にとっても心地よい学校」づくりに努めていく。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがなかなかもてない新年度のスタートとなった。しかし、教職員は、子供たちのより良い成長を願って、「子供たちのために」を合い言葉に知恵とアイデアを出し合い、「できる」工夫をして様々な教育活動の実践に努めていきたいと考える。

港区のめざすべき子どもの姿

夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども

港区の学校経営の視点

- 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校づくり
- 子どもたちがいきいきと学ぶことができる学校づくり
- 保護者や地域に信頼される学校づくり

(港区学校教育推進計画より)

本校の教育目標

- よく考えすすんで学ぶ子
- 力を合わせやりとげる子
- 心も体もたくましい子

I 目指す学校の姿

明るく 笑顔があふれる 誰にとっても心地よい御成門小学校に・・・

- 子どもが安心して心を開き、喜々として学ぶ学校

一どの子にも「優しい」、どの子も「できる・分かる」指導を一

子どもがのびのびと自分らしく力を発揮できるように、教師は、子ども一人ひとりにより添い、行動の背景にある気持ちを理解するように努める。そして、その子のよさを見取り、認め、心から褒め励ましていく。

また、子どもは、「できる」と楽しい、「分かる」と楽しいから、またやってみたくなる。さらに、新たなことにも挑戦してみようと意欲をもつ。そこで、子ども一人ひとりの学習状況を把握し、それぞれに応じた指導・支援を工夫し、その子なりに「できた・分かった」を実感できる授業づくりに努める。

○保護者・地域に愛される学校

ー互いに理解し合い、それぞれの役目を担って連携・協働をー

保護者や地域の方には、日常の教育活動や子どもの様子を積極的に伝えるとともに、保護者や地域の方の声に耳を傾け、子どもにとって良いと考えることに取り組んでいく。しかし、子どもの教育は、学校だけでは成り立たない。学校と家庭、地域が、それぞれの役目を担って連携・協働して子どもたちをよりよく育てていくことが大切だと考える。互いの立場を理解し合い、連携・協働して教育活動を進めていく。

○地域に根ざした教育を実践する学校

ー「地域を知り 地域とかかわり 地域から学ぶ」 実践をー

地域の特色を生かした学習や、地域の方との触れ合いを通じた学習を行い、子どもが地域を理解し、地域への愛着や地域に生きる一員としての自覚をもてるようにしていきたいと考える。地域とつながる教育活動をさらに進めていく。

○教職員が生きがいを感じる学校

ー互いに磨き合い、高め合うチームとなってー

子ども一人ひとりがよさを発揮し、生き生きと学び活動していることは、教職員にとっても大きな喜びである。「どの子にも『優しい』、どの子も『できる・分かる』指導」を目指して、互いに磨き合い、高め合っていく。

II 中期経営計画

1. 一人ひとりの子どもが自己実現の喜びを味わい、確かな学力・豊かな人間性を身に付けることができるようにする。
 - 子ども一人ひとりが自分の学習状況に応じて学ぶことができるようにして、日々の授業の中で「できた」「分かった」を実感し、学ぶ楽しさや喜びを味わい、確かな学力を育む。
 - 子どもの望ましい人間関係、コミュニケーション能力を育てる。
 - 子ども一人ひとりがそれぞれ役割をもち、自分の役割を果たすことを通して、自己有用感をもつことのできるようにする。
2. 子どもが安全に、安心・安定して学べるようにする。
 - 地震などの自然災害だけでなく、子どもにかかわる様々な事件・事故の未然防止を図るとともに、子どもが危険・危機回避等の考え方と技能を身に付けることができるよう、計画的に安全教育を行う。
 - 教職員全員が、カウンセリングマインドの考え方をもって日常的に子どもとかかわることを通して、子どもがだれにでも安心して相談できるようにする。
3. 家庭・地域と連携・協働して子どもを育てる。
 - 教育活動の説明を丁寧に行い、保護者や地域と共通理解を図る。
 - 教育活動に地域の教育力を取り入れるとともに、保護者や地域との連携・協働を充実させて子どものより一層の成長を育むことを通して、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を推進していく。
 - 地域人材や地域素材を生かした学習や、身近な地域での体験を通して、地域を知り、地域とかかわり、地域から学び、地域を愛する子どもを育てる。
4. 御成門中学校と連携し、小中一貫教育を推進する。
 - 子ども同士の交流を通して、お互いに刺激を受け合い、より良く生きていこうとする心情や態度を育てる。
 - 御成門中学校と学習指導や生活指導等についての情報交換を行うとともに、地域の幼稚園 保育園とも連携し小学校・中学校へのスムーズな就学・進学ができるようにする。
 - 各教科において小・中連携を図り、9年間を見通したカリキュラムを基に指導を行い、一貫教育を推進する。

Ⅲ 今年度の取り組みと方策 —5つの教育プラン—

1. 豊かな心の育成

- (1)人とかかわり、思いやりのある温かな人間関係を築く。
 - ・縦割り班活動など、異年齢の子どもがかかわる活動を計画的に行い、思いやりや優しさのある行動を日常的に実践・体験させる。
 - ・言語環境を整え、正しい言葉遣いや礼儀等の指導を教育活動全体の中で行う。
 - ・あいさつ運動を全校で取り組み、あいさつの大切さに気付かせる指導を行い、校内でも地域でも気持ちのよいあいさつをする子どもを育てる。
 - ・「ありがとう」の言葉によって人間関係が円滑になることに気付かせ、感謝の気持ちを素直に伝えることのできる子どもを育てる。
 - ・地域の保育園、御成門中学校との交流を通して、お互いを認め合ったり、尊重したりする活動を通して、温かな人間関係を体験させ、コミュニケーション能力の基礎を培う。

- (2)いじめや仲間外れのない所属意識のもてる学級・学校づくりをする。
 - ・特別活動の充実を図り、自主性・主体性ととも温かな人間関係を育む。
 - ・ソーシャルスキルトレーニングを活用して、人と人とがかかわりながら生きていくために必要なスキルを身に付けさせる。
 - ・hyper-QUの活用やスクールカウンセラーによる面接を実施し、全教職員で子どもの状況を受け止め、組織的に対応を図る。
 - ・年3回の「ふれあい月間」を活用し、いじめのない学校・学校づくりを目指して子ども一人ひとりに自分にできることを考え、実践できるようにする。
 - ・学校いじめ対策検討委員会を定期的に行い、いじめや不登校等の問題行動に対して未然防止に努める。

- (3)きまりやルールを守る指導を徹底する。
 - ・学校で学ぶ際に必要なルール「御成門スタンダード」や、集団生活に必要なマナー「御成門の子」により、全校で統一した指導を行って身に付けさせる。

- (4)清掃活動の充実
 - ・「美しい場所には美しい心がある」を合言葉に、子どもが主体的に清掃に取り組む指導を徹底する。

- (5)心の教育の充実を図る。
 - ・「特別の教科 道徳」の趣旨を十分に理解して、道徳の授業を実践し、道徳的判断力と実践力を育てる。
 - ・家庭と地域と心の教育にかかわる課題を共有し、共に実践する。

- (6)教育相談と特別支援教育の充実を図る。
 - ・きめ細かに行動観察を行い、子どもに関する情報交換を密にする。
 - ・スクールカウンセラーと連携・協力して、子どもに寄り添い、一人ひとりの思いを受け止めて指導する。
 - ・はなみずきルームを活用して、特別支援教育コーディネーターのリーダーシップの下、巡回指導教員と連携・協力して子どもの課題に応じた指導の充実を図る。
 - ・教育相談、特別支援教育の研修を実施し、教員の子どもの理解を深める。

2. 確かな学力の育成

- (1)一人ひとりの子どもに基礎・基本を確実に身に付けさせる。
 - ・授業のねらいを明確にした授業を実践する。
 - ・週1回(15分)の算数タイムには、指導計画に基づいて「東京ベーシック・ドリル」を確実にを行い、計算など学力の基礎を定着させる。
 - ・補習タイムを設定し、既習内容の定着を図ることのできていない子どもへの指導を丁寧に行う。

- (2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
 - ・アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、子ども主体の問題解決的な学習を進め、思考力、判断力、表現力を育む。
 - ・学び合いの場を確保し、各教科・領域において子ども相互のコミュニケーションを重視した学習活動を展開する。
 - ・自分の学習状況を把握できる振り返りの時間を設定する。
 - ・校内で「総合的な学習の時間」の研究を推進し、探究的な学習過程の充実を目指す。
- (3)算数科においては、少人数指導やチームティーチングによる指導、習熟度別指導や課題別などの指導方法を取り入れ、子ども一人ひとりの学びの状況に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
- (4)確かな学び（個に応じた学び・協働的な学び）を保障していくために ICT 機器・教材（タブレット端末、デジタル教科書）の効果的な活用を推進する。
- (5)論理的思考力や問題解決能力の育成を目指したプログラミング教育を推進する。
- (6)読書活動の充実を図る。
 - ・学校司書・学校図書館支援員と連携して読書指導や各教科の学習における読書活動を計画的に行い、読書習慣を身に付けさせる。
 - ・地域協力者によるお話会、読書週間における取組、図書館だよりの発行などを通して、読書への興味関心を高める。
- (7)家庭学習の習慣化を図る。
 - ・教職員で、家庭学習の意義、内容、進め方等について共通理解を図って取り組む。
 - ・保護者会、学校だよりや学年だより等で、学校としての方針を保護者に説明し、家庭と連携して進める。
- (9)保育園（幼稚園）・小学校・中学校との連携を図る。（御成門アカデミー）
 - ・年3回の研究日と2回の授業観察週間を設定して、小中9年間を見通した教育を推進する考え方をもち、学びの連続性と適時性をしっかりと踏まえて、授業を工夫・改善する。
 - ・子ども同士の交流活動を設定し、子どもの主体性とコミュニケーション能力を育む。
 - ・「スタートカリキュラム」を活用して、1年生が安心して小学校の生活や学習を行っていただけるようにする。

3. 健やかな体の育成

- (1)基本的な生活習慣の定着を図り、規則正しい生活を送れるようにする。
 - ・保護者に「早寝・早起き・朝ご飯」の意義を説明し、理解を促し、協力いただくよう働きかける。
 - ・遅刻をしてくる子どもを減らす。
- (2)体力づくり、健康づくりを推進する。
 - ・朝運動、マラソン大会等の全校的な体育指導を実施する。
 - ・中休み、昼休みを20分は確保し、外遊びを励行させる。
 - ・食育の取組として、「港区学校教育食育推進」指導の全体計画を作成し、各教科の学習や学級活動と関連づけて計画的に指導を行い、本校の課題である「生活習慣」の改善を目指す。
- (3)安全教育の充実を図る。
 - ・月一回安全指導日を設定し、年間計画に基づいて校内外の安全な過ごし方を指導する。また、日常的に一声指導に努め、子どもが自分の安全に気を付けることができるようにする。
 - ・セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室、不審者対応避難訓練の内容の充実を図り、愛宕警察署と連携して指導を行う。

- (4)避難訓練・防災教育の充実を図る。
- ・地域の実態を踏まえ、ねらいを明確にした指導の徹底を図る。
 - ・本校で作成した「防災 御成門 ー自分の命は自分で守るー」を活用し、登下校中に地震が発生したときに、子どもが自ら自分の身を守る行動ができるように指導を行う。
 - ・防災ブック「東京防災」や防災ノートを活用した指導を行う。
 - ・芝地区総合支所や関係諸機関と連携を図り、保護者や地域の方と協力して、防災訓練を実施し、自助・共助・公助ができる子どもを育てる。
- (5)安心・安全な環境をつくる。
- ・警備の充実を図り、学校として安心・安全な教育環境をつくり、学校教育において学びの充実に集中できるようにする。
 - ・食物アレルギーについては、年度当初に該当の子どもの保護者、管理職、養護教諭、栄養士、担任と協議し、適切に対応する。
 - ・常に整理整頓を心がけ、清掃の行き届いた清潔感にあふれた教室や学校であるように努める。

4. 豊かな国際感覚の育成

- (1)オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- ・日本赤十字社の活動、A S E A N協会など外国の方々との交流を図るなど、具体的な活動を通して、世界中が助け合っていることや他国の文化などに触れ、国際理解の素地を培う。
 - ・和楽器の演奏や茶道の体験を充実させるなど、地域の人材を活用した体験的な活動を行い、日本の伝統や文化を大切にする心を育む。
 - ・年間を通して俳句づくりに取り組む。
 - ・地域清掃やみなど平和祭りへの参加等によりボランティアマインドの醸成を図る。
- (2)国際科の充実を図る。
- ・NTとのティームティーチングにより国際科の指導の工夫や改善に取り組み、学年や個に応じた英語を使つてのコミュニケーション能力を育てる。

5. 家庭や地域との連携・協力

- (1)地域人材や地域素材を生かした学習を各学年の各教科、領域等の指導計画に位置づけ、身近な地域での体験を通して学習を行う。
- ・授業づくりを通して、地域の方との関わりを深め、地域の子どもは地域で育てる環境をつくる。
 - ・身近な地域での体験学習を通して、地域を愛する子どもを育てる。
- (2)開校30周年を保護者・地域の方と共に祝うことを通して、学校や地域に愛着と誇りをもつ子どもを育てる。
- (3)保護者・地域とのかかわりを積極的に進める。
- ・学校だより、ホームページ、学年だよりにより教育活動を紹介する。
 - ・授業を中心とした教育活動を広く公開する。保護者等の参加をいただく行事として、運動会(御成門ピック)、音楽会、展覧会、学校公開、保護者会、セーフティ教室、道徳授業地区公開講座等を予定している。積極的な参加を呼びかける。
 - ・土曜授業日は、すべて学校公開とする。
 - ・保護者会をできる限り土曜日開催とする。
 - ・地域学校協働本部を積極的に活用して、地域人材や地域素材を生かした学習の充実を図るとともに、学校行事等への支援を通して学校運営の効率化を図る。
- (4)保護者や学校評議員による学校評価を教育活動に反映させる。
- ・7月と12月に学校関係者評価を実施する。結果を公表し、課題や要望に対して、迅速に学校の方針や改善の方策を示す。
 - ・学校評議員会を年3回開催する。評議員には、授業参観をしていただき、教員の授業に関する評価をいただく。

- (5) 学校運営協議会設置に向けての準備を行う。
- ・令和4年度設置を目指して、保護者と地域住民に対し設定の目的や仕組みなどの周知徹底を図る。
 - ・学校、保護者、地域が共通の目標やビジョンをもち、小中連携のあり方、学校運営協議会のもち方等を協議して、組織づくりを行う。

IV 教職員の組織対応と能力・資質の向上 —5つの教育プランの実現を目指して—

- (1) 組織対応の徹底を図る。
- ・それぞれの職種や職層の役割を自覚し、経営方針の実現に向けて努める。
 - ・事案決定手続きを適正に実施する。
 - ・「報告、連絡、相談」を密に行う。
 - ・会議の厳選と、環境整備及びスクール・サポート・スタッフや地域コーディネーターの効果的な活用を通して校務の効率化を図る。（働き方改革の推進）
 - ・全教職員で御成門の子どもを育てる。
- (2) 研究・研修の充実を図る。
- ・校内研究の充実を図り、全教職員が子ども主体の問題解決的な学習を進められるようにする。
 - ・OJT実施計画に基づいて研修を行い、子どもの理解を深めるとともに指導力の向上に取り組む。
 - ・御成門中学校との連携を通して、9年間を見通した教育を推進する考えをもって授業の工夫を行う。
 - ・教職員に港区立幼稚園での一日保育参加を実施し、幼児期の育ちと学びの理解を促して子ども理解につなげるとともに、スタートカリキュラムの改善を図る。
 - ・研究会や研修会に積極的に参加したり、教育専門書読んだりして学んだことを教職員相互で伝え合い、互いに指導力の向上を目指す。
 - ・学年部、各分掌を中心とした日常的なOJTにより、若手教員を育成する。
- (3) さわやかな接遇に努める。
- ・保護者や地域の方に対して、明るくさわやかな挨拶や丁寧で思いやりのある対応を常に心がけ、徹底する。
 - ・常に、服装や身だしなみ、言動に気を配る。
- (4) 教育公務員としての自覚を高める。
- ・服務事故を未然に防止するために毎月研修を実施し、教育公務員としての自覚を促し、服務事故0を継続する。
 - ・危機管理の徹底を図る。

V 新型コロナウイルス感染症対策と教育活動

- (1) 基本的な感染症予防策の徹底を図る。
- ・「3つの密（密閉・密集・密接）」を回避する。
 - ・保護者に「検温と健康観察」を依頼し、登校時の健康チェックを徹底する。
 - ・正しい手洗いを励行する。
 - ・原則として、マスクの着用を徹底する。
- (2) 「新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営に関するガイドライン（港区教育委員会）」に基づいて教育活動を行う。
- (3) コロナ禍であっても「できる」工夫をして子どもの学びを止めない。
- (4) 新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識を基に、感染者、濃厚接触者とその家族、また感染者の対策や治療にあたる医療従事者とその家族に対する偏見や差別が生じないように発達段階に応じた指導を行う。